



京阪支所



交野分室

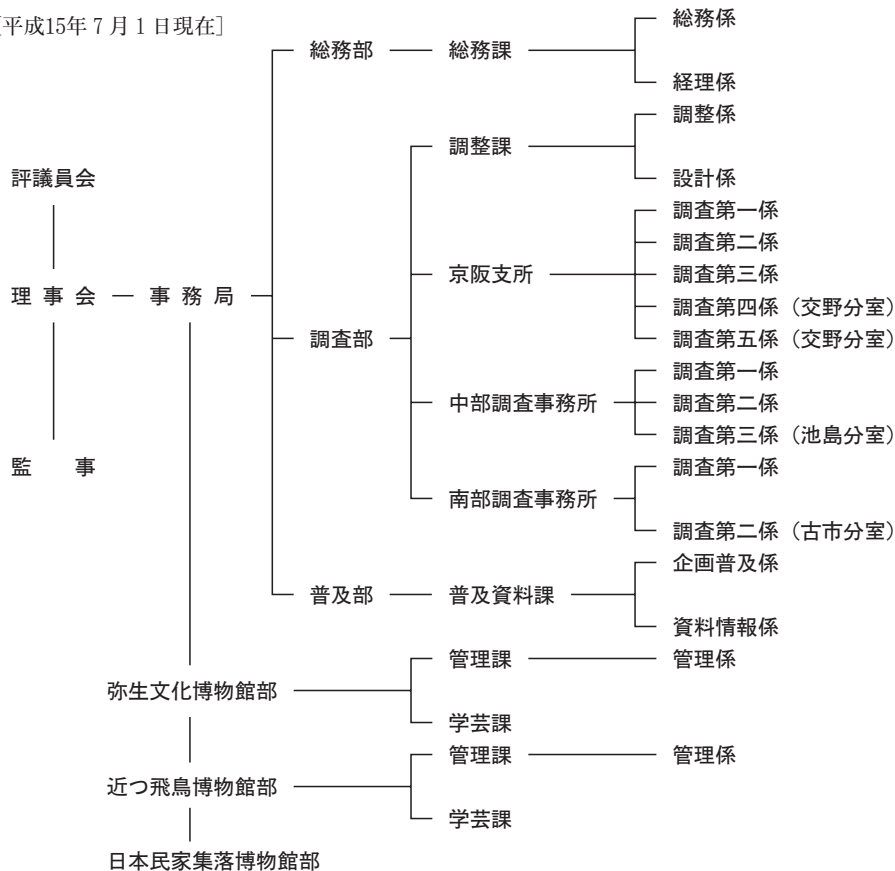
もくじ

- P. 2
 - 平成15年度（財）大阪府文化財センター組織図
 - 新職員の紹介
 - 平成14・15年度人事異動—
- P. 3
 - 評議員会・理事会
 - 京阪支所・交野分室の開設
 - ホームページ開設
- P. 4
 - 平成15年度前期文化財講座
 - 郷土の文化財を見学する会
 - 土面が訴える「過去からのメッセージ」の紹介
- P. 5
 - 平成14年度（財）大阪府文化財センター・博物館共同研究発表会

- シンポジウム 古墳出現期の土師器と実年代
- P. 6
 - 久宝寺遺跡現地公開
 - はざみ山遺跡現地説明会
- P. 7
 - トピックス
 - * 久宝寺遺跡出土古墳時代の盾
 - 発掘された日本列島2003に出品
 - 平成14年度刊行図書
- P. 7
 - 弥生文化博物館 夏の展示ご案内
 - 近つ飛鳥博物館 夏の展示ご案内
 - 日本民家集落博物館 夏から秋の催しご案内

平成15年度（財）大阪府文化財センター組織図

[平成15年7月1日現在]



新 職 員 の 紹 介 — 平成14・15年度人事異動 —

今年度は、第二京阪道路建設に伴う発掘調査のために新たに京阪支所・交野分室が設置され、これに伴う組織変更等があった。また、近畿圏の三団体から新たに13名の出向者をお迎えした。

職員の異動は次のとおり。

退職者

巽 利文（総務部長兼総務課長）定年退職
 一瀬和夫（中部調査事務所調査第一係長）府へ復職
 新海正博（北部調査事務所調査第一係技師）平成14年9月退職
 今川明子（総務部経理係兼北部調査事務所主査）平成15年1月退職
 田中一廣（南部調査事務所調査第一係技師）平成15年4月退職
 馬場恒夫（弥生文化博物館部副館長兼管理課長）府へ復職
 石神 怡（弥生文化博物館部学芸課長）定年退職
 齋藤 司（弥生文化博物館部主事）府へ復職
 内田正俊（弥生文化博物館部専門員）府へ復職
 林 日佐子（弥生文化博物館部学芸員）府へ復職

山本 彰（近つ飛鳥博物館部学芸課長）府へ復職
 河野和明（近つ飛鳥博物館部管理係長）府へ復職
 小谷 太（近つ飛鳥博物館部主事）南部調査事務所へ異動
 大西宏道（近つ飛鳥博物館部専門員）府へ復職
 岩瀬 透（近つ飛鳥博物館部学芸員）府へ復職
新たな派遣職員

蔭山武夫（総務部長兼総務課長）府から派遣
 宮野淳一（京阪支所調査第一係長）府から派遣
 三宅正浩（京阪支所調査第四係長）府から派遣
 山上 弘（調整係主査）府から派遣
 赤木寛治（設計係主査）府から派遣
 櫻井久之（京阪支所調査第一係主査）（財）大阪市文化財協会から派遣
 吉村正親（京阪支所調査第二係主査）（財）京都市埋蔵文化財研究所から派遣
 平田 泰（京阪支所調査第三係主査）同 上
 辻 裕司（京阪支所調査第三係主査）同 上
 土井孝之（南部調査事務所調査第一係主査）（財）和歌山県文化財センターから派遣

真砂郁寿栄（総務部経理係主事）府から派遣
杉本厚典（京阪支所調査第一係技師）（財）大阪市文化財協会から派遣

小谷 裕（京阪支所調査第二係技師）（財）京都市埋蔵文化財研究所から派遣

東 洋一（京阪支所調査第二係技師） 同 上
山本雅和（京阪支所調査第二係技師） 同 上
小松武彦（京阪支所調査第三係技師） 同 上
鈴木廣司（京阪支所調査第四係技師） 同 上
出口 勲（京阪支所調査第四係技師） 同 上
南出俊彦（京阪支所調査第四係技師） 同 上
田淵惠三（弥生文化博物館部副館長兼管理課長）府から派遣

小山田宏一（弥生文化博物館部学芸課長）府から派遣
吉村 健（弥生文化博物館部専門員）府から派遣
西野秀和（近つ飛鳥博物館部管理係長）府から派遣
田中和弘（近つ飛鳥博物館部学芸課長）府から派遣
畠井 浩（近つ飛鳥博物館部専門員）府から派遣

嘱託員

大塚淑裕（総務部総務係）
竹内秀喜（調査部設計係）
山岡平和（普及部企画普及係）
喜納政本（弥生文化博物館部管理係）
片岡由美子（近つ飛鳥博物館部管理係）
沼口紀男（近つ飛鳥博物館部学芸課）

専門調査員

西田倫子（京阪支所調査第一係 讃良郡条里遺跡1）
清岡廣子（京阪支所調査第三係 寝屋南遺跡）
小西絵美（京阪支所調査第三係 大尾・太秦遺跡）
青柳佳奈（京阪支所調査第三係 寝屋東遺跡）
相良英樹（京阪支所調査第四係 上私部遺跡）
三浦基行（京阪支所調査第四係 上の山遺跡）
小澤晃子（中部調査事務所調査第一係 蛭池遺跡）
柏田有香（中部調査事務所調査第三係 池島・福万寺遺跡）
福佐美智子（南部調査事務所調査第二係 はざみ山遺跡）

評議員会・理事会

平成15年6月26日(木) ホテルアウィーナ大阪で平成15年度第1回評議員会・理事会が開催され、平成14年度事業報告及び収支決算について審議し、原案どおり承認された。なお、評議員会において、前国立民族学博物館館長の石毛直道理事は、平成15年3月31日の任期満了をもって退任され、後任に現館長の松園万亀雄氏が選任された。

また、理事会において、任期満了による評議員の改選が行われ、小林栄氏及び敷田年博氏を除く評議員15名が再任された。新たに、文化財保護課長になられた向井正博氏及び住吉大社宮司になられた真弓常忠氏が評議員に選出された。

〔任期 自平成15年6月26日 至平成17年6月25日〕

京阪支所・交野分室の開設

大阪府の北東部にあたる北河内地域を、ほぼ南西から北東にかけて大きく縦貫する第二京阪道路の建設工事が、国土交通省・JHを事業主体として、現在進行している。

この第二京阪道路の建設に伴う埋蔵文化財調査の拠点として、平成15年4月より京阪支所と交野分室の二つの調査事務所を開設した。なお、京阪支所は、主に寝屋川市域と門真市域の調査を、交野分室は、主に交野市域と枚方市域の調査をそれぞれ担当している。

京阪支所（旧大阪府枚方土木事務所寝屋川出張所を使用）

- 建物構造と規模（鉄骨構造2階建て、延べ床面積約466㎡）
- 住所 〒572-0814 寝屋川市堀溝1丁目1番15号
- 電話 072-811-3630 FAX 072-811-3632
- 交通機関 京阪大和田駅下車、京阪バス四条畷駅行きで猪鼻橋バス停下車、徒歩5分。又は、京阪萱島駅下車、徒歩20分

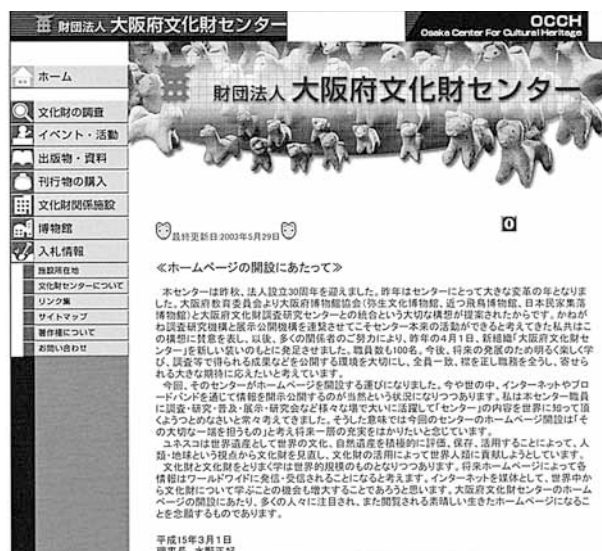
交野分室（新設）

- 建物構造と規模（軽量鉄骨プレハブ2階建て、延べ床面積約502㎡）
- 住所 〒576-0022 交野市藤が尾1丁目2
- 電話 072-895-1200 FAX 072-895-1201
- 交通機関 JR学研都市線河内磐船駅下車、徒歩15分。又は、京阪交野線河内森駅下車、徒歩10分。

ホームページ開設

平成15年3月1日から、センターの調査やイベント・出版等に関する情報を開示し、多くの人々が文化財に対して親しみをもち、理解を深めるための情報公開の場として、当センターのホームページを開設しました。

ホームページアドレス <http://www.occh.or.jp>



トップページ

平成15年度前期文化財講座

今年度の文化財講座は、開催会場が10月に移転するため、前期・後期と分けて開催することとなった。前期文化財講座は、『古墳時代の鏡』というテーマで、現在鏡の研究の第一線で活躍中の五人の研究者の皆さんに、各自の切り口で古墳時代の鏡についてお話いただく企画である。

第1回 5月15日(木)

「鏡の世界—古代の中国と日本—」

岡村 秀典氏(京都大学人文科学研究所助教授)

第2回 6月19日(木)

「三角縁神獣鏡製作地論争の現状と展望」

福永 伸哉氏(大阪大学大学院文学研究科助教授)

第3回 7月17日(木)

「三角縁神獣鏡とヤマト王権」

岸本 直文氏(大阪市立大学文学部助教授)

第4回 8月21日(木)

「弥生後期の鏡を掘る—北部九州の様相—」

藤丸詔八郎氏(北九州市立自然史・歴史博物館特別研究員)

第5回 9月18日(木)

「鏡の文様の図像学」

曾布川 寛氏(京都大学人文科学研究所教授)

昨年度に引き続き大阪府中小企業文化会館12号室を会場として午後6時30分～8時までの講義である。

今回は237名の応募により、全員に受講のお知らせを送付。最終219名の会員で実施している。

5月15日の第1回講座は201名の出席があり、全会員数の92%と担当以来最高の出席率を示した。先生のご高名は言わずもがな、前年までは抽選により会員を選ばざるを得なかったが、そうするとどうしても聴講したい方が落ちてしまうが、今回はそういう方が皆さん受講されたためと考えられる。後期講座は、決まり次第案内をお送りする予定である。

郷土の文化財を見学する会

今年度も総勢300名近い会員のもと、「郷土の文化財を見学する会」を立ち上げることができました。

第1回例会は4月14日(日)に岸和田の久米田古墳群、久米田寺、摩湯山古墳、山直郷の遺跡群等を訪れました。

古代の和泉の中心地と考えられている当地の歴史を古墳群や遺跡を訪れることにより考え、かつ学びました。

時々小雨が降るやや長距離の行程でしたが、50名の参加者の大半が最後まで歩きとおされました。

第2回例会は5月11日(日)に堺の市街地を訪れました。当日も生憎の雨でしたが、いわゆる堺の中世からの中心地

である「旧市内」を講師の森村健一氏の説明を興味深く聞きながら史跡を巡りました。また、堺刃物会館では同館の職員に刃物造りの実演と解説をして頂きました。

第3回例会は6月22日(日)に高安古墳群等八尾市内の生駒山西麓にある古墳を訪れました。またも雨天でしたが、参加者は98名を数え盛況でありました。

講師の八尾市立歴史民俗資料館前館長棚橋利光氏は元高校教師でもあり、解説はわかり易くかつ多彩な内容で、参加者は引きこまれるよう聞き入っていました。



第1回例会 久米田古墳群 貝吹山古墳墳頂での解説

土面が訴える「過去からのメッセージ」の紹介

平成14年度センター30周年記念・弥生博冬季企画展「過去からのメッセージ—大阪発掘30年—」の催し物の一つとして、『土面が訴える過去からのメッセージ』を展示会期中募集したところ、小学生からお年寄りまで幅広い年齢層の方々から147通の応募がありました。小中学生の部・高校生以上の部と、各々3点の心に残るメッセージが入選されましたので、ここに紹介します。

小中学生の部 (応募114通)

『もう少し、自然の事を考えてあげなよ。川を見てごらん。森を見てごらん。ほら自然達の泣く声が聞こえないか。』

中西叶恵さん(近畿大学附属小学校 五年生)

『ぼくは、誰に作ってもらったのか自分でも覚えていないけど、自分が生まれた時代はおぼえてる。』

郡 まことくん(11才 堺市東雲西町)

『私の時代は争いが多数で、家族や友人を失いました。だから、今の皆さんには争いをせず平和に暮らしてほしい。』

伊藤絵里花さん(近畿大附属小学校 五年生)

高校生以上の部 (応募33通)

『私のこのぬくもりや優しさを皆さんも感じ取って下さい。何事においても「〇」まるが一番。』

金沢潤一さん(36才 堺市土塔町)

『おーい！ オレの子孫は絶え間なく続いているかー？』

平松要次さん(33才 大阪市旭区)

『僕は縄文時代からやって来たんだ。あの頃は何もなかったけど、とっても楽しかったんだよ！現代(いま)はどうかな？』 森田さおりさん(30才 枚方市田口)

平成14年度（財）大阪府文化財センター・ 博物館共同研究発表会

本誌No.24で紹介したとおり、平成14年度から（財）大阪府文化財センターと大阪府立弥生文化博物館、同近つ飛鳥博物館、日本民家集落博物館との間で共同研究を行うこととなった。それぞれ「弥生時代のはじまり」、「『河内名所図会』にあらわれた遺跡の研究」、「住居に関する総合的研究」というテーマのもとに数回の研究会を行い、本年3月1日（近つ博）、3月15日（民家博）、3月16日（弥生博）にはそれぞれの博物館で一般向けの発表会も行った。共同研究のメンバーとしては、センターと博物館職員に他、外部から次の方々に加わっていただいた。「弥生時代のはじまり」後藤 直氏（東京大学教授）、深澤芳樹氏（現奈良文化財研究所室長）、『河内名所図会』にあらわれた遺跡の研究 上野勝己氏（太子町立竹内街道歴史資料館々長）、梯 信暁氏（大谷女子大学助教授）、「住居に関する総合的研究」瀧端真理子氏（追手門学院大学講師）、宇田章二氏（白川村教育委員会）。

一般向け発表会は、日本民家集落博物館の場合は参加者が少なかったが、他の2館は盛況であった。また、それぞれ発表レジュメの他、研究会での発表資料をまとめた冊子が刊行された。なお、本年度には共同研究の成果報告書を刊行する予定である。



弥生文化博物館

（弥生博撮影）



近つ飛鳥博物館

（近つ飛鳥博撮影）



日本民家集落博物館

（民集博撮影）

各会場での発表会風景

シンポジウム 古墳出現期の土師器と実年代

2003年3月8日（土）・9日（日）の両日、大阪府中小企業文化会館1階12号室において、当センター主催による「古墳出現期の土師器と実年代」と題したシンポジウムが開催された。古墳成立期の諸問題については各方面からのアプローチが試みられているが、今回のシンポジウムの主旨は、近年の新資料をもとに各地の精密な土器編年を構築し、その整合性を検証した上で、年輪年代学の成果をあてて古墳成立期の実年代観、および政治的な動向について一定の示唆を与えようとしたものである。当センターでは1999年度から2002年度までシンポジウムの開催を目標とした準備会を断続的に実施していたが、今回はその総まとめにあたる。

シンポジウムは坪井清足顧問の挨拶に始まり、外部からの招聘講師およびセンター職員の計10名による各地の土器編年の基調報告、最後に討論会と続いた。講師陣は準備会での発表者に再度お集まり願ったが、日程の都合上、演壇での基調報告者と、一般席でのコメンテーターという形で参加いただいた。対象地域は東海・北陸から九州に及び、各地の土器編年研究の最新成果が述べられるとともに、討論会では活発な意見が交換された。

会場には研究者、学生、一般市民など、両日合わせて252名の聴講があり、本テーマに対する関心の高さを窺わせた。討論会は2時間の予定を30分延長して活発な議論が行われたが、テーマの大きさゆえ、限られた時間内で十分な結論を出すには至らなかった。当然ながら土器編年研究は、研究者によって着眼点、手法、精度が異なり、その整合性に詳細な検証が続けられるべき必要性を痛感したが、弥生末が2世紀末、庄内式が3世紀初頭～後半という年代観はおおよそ認識されたものといえ、大筋において成功を収めた。用意した資料集も3月中に完売し、一般の方を含め古墳成立期の実年代観について関心を高めた点でシンポジウム開催の意義は大きい。

なお、今年度にはシンポジウムの成果を踏まえた編年集成および論文を収録した「古式土師器の年代学」（仮題）の出版が予定されている。

（西村 歩）



討論会の様子

久宝寺遺跡現地公開

去る5月24日、八尾市亀井に所在する久宝寺遺跡で、現地公開が行われた。当遺跡は竜華水環境保全センター水処理施設の建設に伴う発掘調査で、調査は平成13年度から行われており、今年度が最終年度にあたる。三ヵ年におよぶ調査面積は約22,000㎡を超え、久宝寺遺跡の全体像を知る上で多大な調査成果が期待できる。

当遺跡では昨年度、古墳時代初頭の墳墓が30基近く密集してみつき、8月24日に現地説明会が行われた。

今年度は、昨年度調査区域の南側半分で調査が行われ、昨年同様、古墳時代初頭の墳墓が20基近くみつかった。現地公開はこれらの墳墓群を対象にして行われ、参加者は90名を超えた。

なかでも目を引くのは調査区南西端で見つかった前方後方形の墳墓で、多くの参加者の注目を浴びていた。久宝寺遺跡では当調査地から西に約400mの地点で、前方後方墳が既に一基見つかっているが（八尾市調査・久宝寺古墳）、今回見つかった墳墓は出土遺物からこれよりも100年近く前に築造されたものと考えられる。この墳墓が当遺跡で検出された他の50を超える墳墓より先立って築造されたのか、それとも他の墳墓の築造がある程度終了してから築造されたのか、今後出土遺物の検討によって解決せねばならない問題である。そして、やはり参加者の興味や質問もこの問題に集中していた。

その他、墳墓中で検出された完存の組合式木棺や、古墳時代前期の流路から出土した盾（今回通信の記事参照）も参加者の目を引いた。また墳墓築造以前の遺構から出土した遺物（弥生時代後期初頭の竪穴住居出土土器など）も同時に展示され、土器の観察に余念のない参加者もみられた。最後に、今回の現地公開では新聞発表が行われず、関係者以外への情報公開は当センターのホームページ上にお知らせとして載せたのみであった。にもかかわらず多くの一般参加者が来訪されたことは、ホームページ上での情報伝達力を知る上で貴重な事例となったといえよう。

（奥村茂輝）



現地公開風景

はざみ山遺跡現地説明会

6月7日、南部調査事務所では、現在も発掘調査を進めつつあるはざみ山遺跡の現地説明会を開催した。

調査は、藤井寺市公団1丁目地内で行われている公団藤井寺住宅建て替え事業に伴うもので、昨年秋より現地での調査を開始した。

当日は開催予定時刻の一時間半ほど前から生憎の雨模様となり、さらに、開始時刻直前には雷にも見舞われるという悪条件が重なった。

このため、一時は開催も危ぶまれる状況ではあったが、開催予定時刻2時間ほど前からすでに見学者の方々が集まり始めていたため、当初計画していた場内の導線計画を一部変更して見学会を行うこととした。

見学していただいた方々は総数457名。その内訳は、大阪府内の方々422名、近隣府県の方々35名であった。

大阪府内では藤井寺市在住の方が215名と最も多く、その中でも調査着手前にこの団地に暮らされていた方々が多いことが特徴的であった。

大阪府外では奈良県17名、京都府10名、兵庫県5名、和歌山県2名、三重県1名であった。

ちなみに、今回、見学の対象とした遺構は、飛鳥時代の掘立柱建物群である。建物の数は現在までに46棟を数え、周辺の調査が進めば、さらにその数を増すものと見られる。

中心としたのは梁行2間、桁行5間の身舎に4面庇を設けた大型掘立柱建物で、その床面積は身舎で約60㎡、庇を含めると100㎡を少し越える。

現代風には浴室・洗面所のない正味100㎡、ワンフロアの1LDとも呼べようか。床面積だけに限れば、ウサギ小屋に暮らすと言われる我々と、往時の人々との住環境が如何ほど進歩したのかと考えさせられるものがある。

遺物では、井戸枠に再利用されていた準構造船と、土製仮面に注目が集まり、熱心な質問が飛び交っていた。

船の用材については、大工の方の有意な意見がうかがえ、我々も学ぶ部分が大きかった。また、土製仮面は当該期2例目の資料で、今後更なる追求が必要となる。

（三好孝一）



現地説明会風景

トピックス

＜＜＜ 久宝寺遺跡（水処理その3）から古墳時代の盾出土 ＞＞＞

久宝寺遺跡では寝屋川下水道竜華水環境保全センター水処理施設建設に伴って平成13年度より発掘調査を行っている。これまでの調査では、庄内式期から布留式期を中心とした遺構面を調査区のほぼ全域で確認している。

今年度の調査（水処理その3）では、調査区中央部～南東部にかけて幅約8.0～10.0mの古墳時代前期の流路を検出した。流路は南東から西方向に流れていたものと考えられる。調査区中央でこの流路は南北方向の溝と連続しており、この部分に合掌形の構造をもつしがらみを設けていた。しがらみは水流を北方向の溝に調節する機能をもち、南北方向約18mにわたって確認している。しがらみは先端を尖らせた杭を打って構築されており、中には建築部材を転用した可能性のある杭も使用されている。

しがらみの北端部分、流路と溝がほぼ接する箇所には木製盾が転用されていた。完全な形ではないものの、遺存状況はきわめて良好であった。樹種はスギ。残存長122.0cm、残存幅34.2cm、厚みは0.9～1.2cmである。表・裏面は平滑に整えており、表面を凸形に緩やかな

カーブをもつよう仕上げている。この盾には等間隔で穿たれた紐穴が横列に規則正しく並び、同様の紐穴は盾の周縁部にも穿たれていた。また、紐穴には綴紐の残存物が確認されている。

このほか、特筆すべき木製品として流路に沿って設けられた堤の北側のたわみからさしば形木製品一点が出土している。
（後川恵太郎）



久宝寺遺跡（水処理その3）から出土した盾

発掘された日本列島 2003 に出品

当センターが昨年度に調査した寝屋川市所在、讃良郡条里遺跡の出土遺物が文化庁他主催「発掘された日本列島 2003」に出品されています。

平安時代の川跡から出土した祭祀関係の遺物です。絵馬、墨書人面土器（写真左）、人形（写真右）、斎串、馬の顎骨が展示されています。全国を巡回しますので見学の程よろしく願います。



出展中の墨書人面土器と人形

平成 14 年 度 刊 行 図 書



弥生文化博物館 夏の展示ご案内

平成15年夏季企画展

世界の貨幣展 金は天下のまわりもの 7月19日(土)～9月7日(日)

大阪府の誇る「府立大阪博物館」(明治から大正時代にかけて大阪市内に開設されていた博物館)の旧蔵貨幣資料を中心に、お金の歴史をふりかえる展示会。

中国や日本をはじめ世界各国の貨幣を展示します。

お金の世界をじっくりとご覧ください。



「太閤大判金」江戸時代
府有形文化財 大阪府教育委員会蔵

■ 夏季企画展セミナー(全3回)午後2時～4時

①7/21(月・祝日)「富本銭から和銅開珎へ」

松村恵司奈良文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部第二考古調査室長

②8/17(日)「埋蔵銭から見た中世の銭貨」

尾上 実 出土銭貨研究会幹事

③8/31(日)「府立大阪博物館と旧蔵古銭貨章牌類資料」

久米雅雄 大阪府教育委員会 文化財保護課主査

■ 夏季企画展体験学習 8/3(日)、8/30(土)

「コインをつくろう」コインの鑄造に挑戦! 要申込

◆学芸員による考古学講座 9/7(日)

◆やよいミュージアムコンサート 8/9(土)、9/14(日)

◆ミニギャラリー 絵画コンテスト優秀作品展 8/3～24他
詳しくは博物館までお問い合わせください(0725-46-2162)

<http://www.kanku-city.or.jp/yayoi/>

近つ飛鳥博物館 夏の展示ご案内

平成15年度 夏季企画陳列のお知らせ

「水門会写真展2003」

写真家入江泰吉氏が主宰した「水門会」の会員による写真展を昨年に続き開催致します。さまざまな表情をみせる四季折々の風景など、第一線で活躍する写真家16名の作品を展示いたします。※期間中の日曜日は、水門会会員が来場します。
◇8月3日(日) 高島節二氏 ◇8月17日(日) 井上博道氏
◇9月7日(日) 今駒清則氏 による講演を開催いたします。
(詳しくは博物館までお問い合わせ下さい。)

期 間:平成15年7月29日(火)～9月15日(月)

月曜休館(9月15日(月・祝)は開館)

開館時間:午前10時～午後5時(入館は午後4時半まで)

入館料:大人300円

高校生・大学生・65歳以上の方200円

夏休み子どもプログラム実施中(詳しくは博物館まで)

◆夏休み子ども博物館探検ツアー(8月3、10、17、24日)

◆博物館子ども工作室(8月14、15、16日)

◆子ども展示見学キットラリー(8月9、16、23日)

アクセス:近鉄長野線喜志駅下車、喜志駅より金剛バス
阪南ネオポリス行き終点下車、約600m

問合せ先:大阪府立近つ飛鳥博物館 TEL 0721-93-8321

<http://www.mediajoy.com/chikatsu/>



写真:高島節二氏

日本民家集落博物館 夏から秋の催しご案内

◆懐かしの飲み物プレゼント<8/12(火)～8/17(日)>

◆竹細工・絵画教室

<8/23(土)、24(日) 10:00～12:00>

◆ジュニア(小中学生向け)民家解説見学会

<8/24(日) 10:00～12:00>

◆ボランティアによる民家解説

<9～11月の各日曜 13:00～16:00>

◆企画展「世界遺産白川郷一合掌造りと大家族」

<10/1(水)～12/25(木)>

◆なるせ女剣劇団民家集落公演

<10/19(日) 13:30～15:30 雨天時26(日)>

◆はたおり体験教室

<10/25(土)～11/2(日) 10:30～15:00>

◆学芸員による民家解説見学会

<11月の土・祝日 14:00～15:00>

◆民家の囲炉裏で暖まろう

ー囲炉裏ばたでのお茶のサービスとわら草履体験ー

<11月～来春3月の土・日・祝日>

◆落語で笑うて民家 ー「笑・会」民家集落秋の公演ー

<11/9(日) 12:00～15:00>

◆押し花教室(年賀状作り)

<11/23(日)、24(月) 10:30～15:30>

◆しめ縄作り教室

<12/14(日) 10:30～12:00>

他に秋のお茶会、昔話と紙芝居、絵画教室<11/8(土)>
なども予定しています。上記の催しについて、詳しくは博物館へお問い合わせください。(TEL 06-6862-3137)